

現場での「演劇×教育」授業実践

@大阪市内 公立の小学校、全3回

開催日時 2022年1月 計3日間

実施概要 学年 6年生・2クラス
授業内容 演劇創作「6年間の思い出」
授業時間 2限 (90分) × 3日間

開催概要

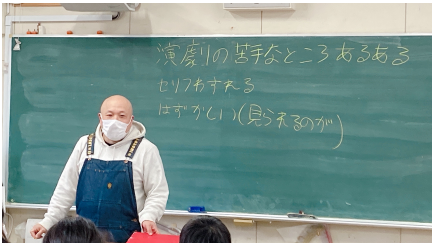
大阪市内の公立の小学校において、6年生の児童を対象に、計3日間に渡る演劇創作の授業を実施しました。創作のテーマは「6年間の思い出」。授業の様子は、研究会主催者が参与観察させていただくと共に映像を記録させていただき、第3回研究会の資料としました。

プログラム

日程	項目	備考・ファシリテーターからの解説など
1日目	導入	「演劇の授業では『わからない』と『違う』を『楽しむ』時間にしたい。 『わかる』こと『同じ』にすることは、頑張らなくていい」
	ジェスチャーゲーム	「わからない」と「違う」ことを「楽しむ」ゲーム。 「『わからうとする』や『伝えようとする』を頑張ればOK」
	たけのこニョッキ (声を出さない)	起立した状態から、言葉を使わず順番に座っていく。同時着席はNG。 言葉を使わずに「伝える」ゲーム。
	アーティストねんど	「モデル」のポーズを「アーティスト」が言葉だけで伝えて、「ねんど」が「モデル」と同じポーズをとる。伝え方や感覚の差異を楽しむ。
	シナリオ創作の話し合い	「6年間の思い出」というテーマに沿ったショート演劇を創作するため、 シナリオの材料となるアイデアを出していく。
2日目	目線回し・拍手回し	「目線を回す」「冷たい目線を回す」というちょっとした表現活動の体験。 言葉を使わずに「拍手を回す」ことで「伝えよう / 分かるうとする」を体感。
	道徳教材「雨と殿様」	内容項目「規則の尊重」の教材。門番や殿様のセリフを児童が考え俳優が演じた。 「門番の伝え方が違っていたら?」「殿様が体調の悪い人だったら?」を考えた。
	演劇創作の進め方説明	感染症対策のため、「児童に演じてもらう」のではなく「俳優が演じる」方針に 変更すること、「児童は脚本家・演出家の役割」であることを伝えた。
	シナリオアイデアを考える	児童一人ひとりでワークシートに記入してもらった。 タイトル「○○の思い出」と詳細。テキストだけでなく絵で伝えてもOK。
3日目	各クラスで練習	ファシリテーターの俳優2名が基本的に演じた。児童には、適宜舞台上に登場し てもらう他、俳優のお芝居に対してコメントをもらった。
	2クラス合同で発表	1組・2組合同で、各クラスで創作されたお芝居を発表した。
	ふりかえり	「中学校の思い出」というタイトルで作文し、ワークシートに記入。 これから進学する中学校3年間で、どんな思い出をつくりたいか考えてもらった。

特筆すべき事項

授業実施期間中に、大阪府が新型コロナウイルス感染症「まん延防止等重点措置」の対象地域として指定されたため、児童同士のグループワークを極力減らす方針に変更された。そのため、当初の授業計画を2日目段階で見直され、演劇創作の進め方が「俳優が演じる」「児童は脚本家・演出家」となった。



授業の導入



講師の打ち合わせ, 振り返り



創作されたお芝居の上演